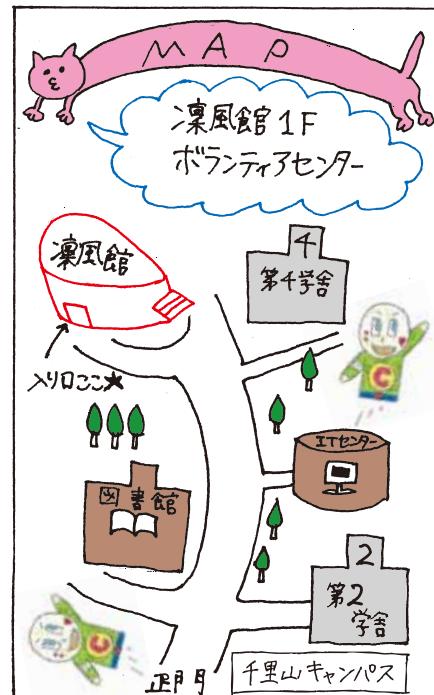


ボランティアセンター学生スタッフ 学園祭2010コンテンツ★(11/4~7)

千里山キャンパス凜風館
1階学生ラウンジにて開催!



障がい者や高齢者の方が快適に日常生活を送る手助けをする自助具としての爪切り。学園祭期間中みんなで体験。



知って 自助具って

何だろう?

ユニバーサルデザイン製品である自助具の紹介。

感じて アイマスクをつけて

実際に体験してみよう!

旗上げ、ボーリング、パズルなどのゲーム。

広げよう 点字を読んで、

作ってみよう!

点字でメッセージカードや名刺を作成。

編集後記

●今回のボラリーはいつも以上に余裕がなく多くの迷惑を周りにかけてしましましたが、最後までがんばってくれた編集委員に感謝しています。(さとみん)

●今回の編集のテーマは「変化」でした。良い意味でこれまでとは一味違ったものができたと思います。一人でも多くの方にみてもらいたいです。(やっつん)

●ボランティア体験隊の記事を掲載するにあたり、外部の様々な方にご協力頂きました。そんな支えのお陰で今月号のボラリーができました。(みっきー)

●1P~4P担当させていただきました。完成後、手が動かなくなりました。実話です。大阪市立視覚特別支援学校の皆さん、ご協力ありがとうございました。(なっつ)

●新入生の挑戦意欲によって、より充実したものに仕上がったと思います。本誌を見たみなさんほどに想われるのか楽しみにしています。(VC職員T)

●猛暑だからやせる、と思っていたら増量。汗と脂肪は別物らしいです。「思い込みはあかん。行動して学ぼう」と指導しながら、こっそり反省。(VC職員ゆ)

Volury

ボラリー

関西大学ボランティアセンター通信

つなぐ手から 広がる交流

Vol.13

発行日：2010年(平成22年)10月28日
発 行：関西大学 ボランティアセンター
大阪府吹田市山手町3丁目3-35
〒564-8680 / TEL.06-6368-1121
<http://www.kansai-u.ac.jp/volunteer>

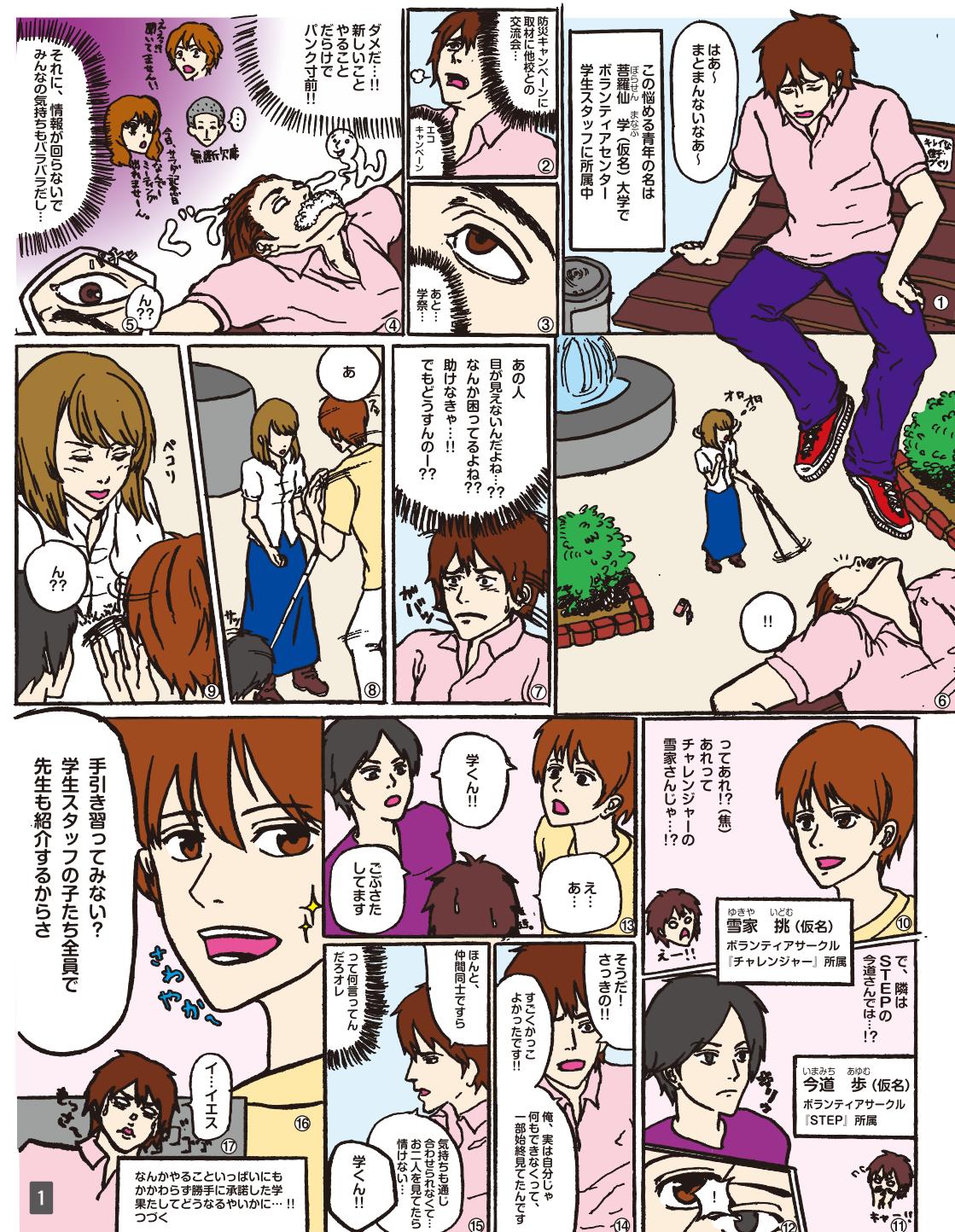
Index:

視覚障がい者の
手引きにチャレンジ!!
～ボラセンに連帯感が生まれる日～

新連載 学生スタッフ
ボランティア体験隊



⚠ 漫画は実話をもとにしたフィクションです。



こちらが今回僕たちに手引き講習をしてくださる、大阪市立視覚特別支援学校の歩行訓練士の方々です。左から 中野純子先生、田中良子先生。先生方、よろしくお願いします。



手引きの前に先生のお話を聞こう。

Q : 手引きってなんですか？

A : 視覚障がい者の移動方法の1つです。白杖や盲導犬などもありますが、手引きは人に誘導してもらうのでもっとも安全で、白杖や盲導犬のみで1人で満足に行動するまで何年もの訓練が必要であるのに比べ、訓練もほとんどないためとても便利な移動方法なんですよ。

Q : どんな方にでも使えますか？

A : はい。工夫すればどのような方にも使っていただけます。ただ今回学んでもらう手引きの方法は対象として小学校高学年以上の方で肢体不自由でない方向きですね。年齢や場所によって工夫していく必要があります。

Q : 手引きをするにあたって気をつけるべき点は？

A : 必要な情報を伝えること。「階段を上ります。」「右に曲がります。」など。あとは安全確保です。常に周りに危険がないか確認しましょう。また、なんでもやってあげるではなく本人にできることは本人に任せましょう。でもやっぱり一番大切なことはお互いの信頼関係を築くことです。不安はより危険を招きます。





これが手引きの基本の形。狭い道やドアをくぐるときなどでは一列に並んで歩いたりするんだけど、今回は基本をまずマスターしよう。
もっと詳しく知りたい方はボラセンまで。

まず「お困りですか?」「何かお手伝いしましょうか?」など声をかけよう!!



通る場所の『天井の高さ』『幅』『障害物』を確認して安全に気を配ろう。



当たり前だけど、押したりひっぱったりはダメだからね。

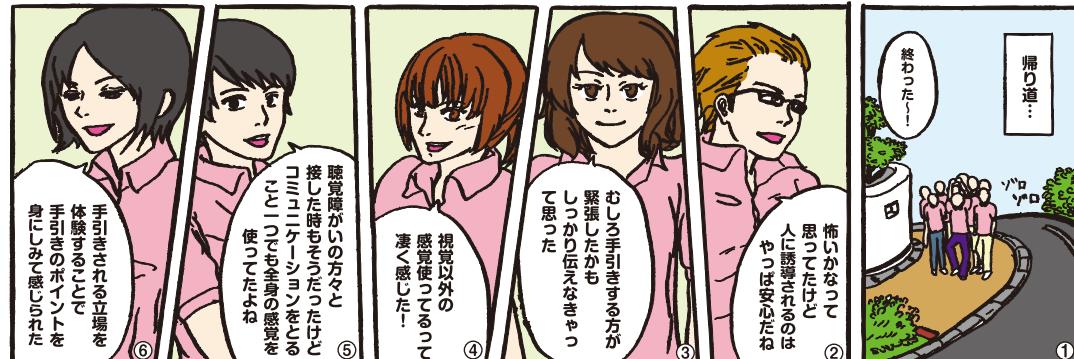


間隔は半歩がベスト。離れすぎると不安定なんだ。あと、ひじの上あたりを持ってもらうとより安定するよ。

心配でも振り返ってはダメ! 手引き者の腕が動いてもっと危ないよ。まっすぐ前を見よう。

●永野友樹さん（表紙写真左、p.3写真左）
大阪市立視覚特別支援学校専攻科保健理療科在学中。

「手引きはたくさんの人にもまだ知られていないのでもっと多くの方に知って欲しい。」という気持ちから、自ら視覚障がい者の立場として、積極的に意見やアドバイスをたくさん下さいました。お忙しいところお時間をいただき参考となる助言、本当にありがとうございました。



みんな改めてようしく!!



かくしてまた一步前進したボランティアセンター学生スタッフ。
これからもご声援よろしくお願いします。完。



今回私たちは皆さんにより分かりやすくボランティアをコーディネートできるように、実際に体験＆取材を行ってきました★これから毎号調査報告を掲載していきたいと思います。今月のテーマは学園祭にちなんで「福祉」！

他にも様々なところに行ってきました。その様子や感想などをまとめた冊子を現在作成中です！秋からのボランティアセンターはさらに詳しい情報の提供や、相談に応じられるようにpower up!します。



大阪医科大学附属病院



病院ボランティア (高槻市)

病院は専門的な人が働く場所だと思っていたので、病院ボランティアがあると知った時、とても興味を持ちました。一方で病院は人の命に関わる所でもあるので、堅く重苦しいイメージがあり、責任重大ではないのかと不安もありました。しかし実際は、図書やエコキャップの整理など、チャレンジしやすい環境が整っていました。

一番大切なものを学べました！

ボランティアの多くの方が昔病

院にお世話になったので、今その恩返しをされているとの事でした。さらに、“ありがとう”と直接言われなくても誰かの役に立つていればそれだけで嬉しい”と思える心に私はとても感動しました。今回の調査でボランティアを行う際の気持ちや姿勢を改めて思い直す事ができ、このような心が一番大切だということを学びました。この気持ちを忘れずにこれからも積極的に様々なボランティアに参加してみたいです！

（2年次生 女子）



〈お知らせ〉ボランティアセンターでは様々な啓発講座や講演なども行っています。千里山・凜風館4階で開催されます！詳しくは後日インフォメーションシステムにて。

4時限 11/24 聴覚障がいの方のお話を聞く会 11/25 視覚障がいの方のお話を聞く会

-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-

大阪府立だいせん聴覚支援高等学校

学校ボランティア（堺市）

聴覚に障がいのある子どもたちの学習のお手伝いをするボランティアです。私は今まで聴覚障がいの方と接する機会もほとんどなく、勉強を教える以前にコミュニケーションをとることができるかどうか不安でした。しかし実際は全員が全く聞こえないという訳ではなく、自分の言

葉にうなずいてくれる子などもいて嬉しかったです。また、筆談や手振りなどでも伝



わるので手話ができないからといって遠慮する必要はないのだなと感じました。

思いきって声をかけてみよう！

私たちにとって障がいについて深く考える機会になりました。想像以上にコミュニケーションがとれるという事が分かると同時に、簡単な手話だけでできたらもっと積極的に関われたかなと思う所もありました。今回の体験をきっかけに手話講習を受けることにしました！

（1年次生 女子）



聴覚障がいの方のお話を聞く会

春学期に凜風館で行われたこの会、参加した人それぞれに得た物があったみたいです。自分にとっての当たり前が皆にとっての当たり前じゃない事に気付いたり、普段から周囲に配慮した行動をとるように心がけるようになったり…。街で聴覚障がいの方を見かけた時、私たちが彼らが不自由を感じていることに気付く事が大事だそうです。この秋再び開催されるので、関心をもたれた方は一緒に体感しましょう！

